

研究タイトル: 歴史的観点から見た日本語の変遷に関する研究

—古代語から現代語までを対象として—



氏名: 中田 幸子 / NAKADA Sachiko E-mail: s-nakada@oyama-ct.ac.jp

職名: 准教授 学位: 修士(教育学)

所属学会・協会: 日本語学会、全国大学国語国文学会、早稲田大学日本語学会

キーワード:   
▷ 日本語史 ▷ 日本語学 ▷ ことばの位相 ▷ 言文一致  
▷ 女性のことば ▷ ジェンダー ▷ 敬語の機能 ▷ ポライトネス  
▷ 配慮表現 ▷ 国語教育 ▷ 教材開発 ▷ 特別支援教育

技術相談  
提供可能技術:   
1. 日本語のコミュニケーションに関する講座、講演。  
2. 日本語の歴史的変遷に関する講座、講演。  
3. 特別支援教育、ダイバーシティ社会、ジェンダー等に関する講座、講演。

**研究内容:**

**テーマ1. 古代語から現代日本語における歴史的な研究**

これまで、「希望表現」や「行為要求表現(命令・依頼表現)」、「禁止表現」などの歴史的変遷、即ちその形態や機能の変遷とその要因についての研究を行ってきた。また、行為要求表現について研究した際には、敬語の機能についても考察を行った。今後も、日本語の表現形式と機能の変遷について、客観的なデータを基に記述し、更に変遷の要因についても考察を行う。

**テーマ2. 社会学の観点から見た日本語についての考察**

私がこれまで行ってきた命令表現、禁止表現研究においては、時代を問わず、日本語において、「～シロ」、「～スルナ」の命令、禁止形式は、男性専用形式であった。現代の学校生活においても、女性教員が学生に指示をする場合には、「～シロ」、「～スルナ」などの強い働きかけを持つ表現形式は使えないため、婉曲な表現形式を選択し、効果的に用いるほかない。これは、極端に分かりやすい例だが、日本語における表現形式とジェンダーの関係について、歴史的な観点から考察を行う。本研究では、ジェンダーを「社会的・文化的性別」と位置づける。

**テーマ3. 国語教育における教材の開発**

これまで行ってきた授業展開の記録や作成した試験問題等を吟味、推敲し、解説も付けながら著書として刊行したいと考えている。

researchmap: <https://researchmap.jp/nakasachi>

研究紀要: -

**提供可能な設備・機器:**

名称・型番(メーカー)	